

Niigata University
Campus Magazine

新大広報

Campus Forum

新潟大学広報誌

NO.
147
3月号

卒業退官



- 巻頭言—— 学長挨拶
学長 長谷川 彰
- 卒業・修了——
卒業生、修了生の言葉
- 退任の挨拶——
各部局 退官教官の言葉
- キャンパスあれこれ
「新潟大学全学講義
《ビタミンCと健康ービタミンCの抗酸化機能を中心にー》
「理学部コロキウムの実施について」
- 掲示板・・・新潟駅南キャンパス「CLLIC」オープン



新潟大学長
長谷川 彰

卒業生、大学院修了生及び 退職する教職員の皆さんへ

平成15年の早春に新潟大学を卒業される皆さん、大学院を修了される皆さん、ならびに退職される教職員の皆さんに、心からお祝い申し上げます。

卒業生ならびに大学院を修了される皆さんには、これまで皆さんを支えてこられた家族や友人、先輩たち、お世話になった地域の人々、ご指導下さった先生方など、学生時代にであった多くの人々への感謝の気持ちを、あらためて思い起こしていただきたいと思います。皆さんの中には、さらに大学院で学究生活を続けられる方もおられますが、大多数の方々は大学に別れを告げ、実社会へ旅立たれます。グローバル化が進み、しかも目まぐるしく移り変わる現代社会にあって、皆さんは常に冷静に、かつ多面的に世の中をとらえることのできる国際感覚を身につけていただきたいと思います。新潟大学では、社会性と国際性を重んずる教育を教育目標の一つにかかげ、皆さんとともに目指してきましたが、今後とも社会の動向に常に強い関心を抱き、今おかれている世界情勢をしっかりを見据える洞察力を培っていただきたいと願っております。



退職される教職員の皆さんは、永年にわたり新潟大学の発展に尽くして下さいました。皆さんの中には、新潟地震、五十嵐キャンパスへの統合移転等々、いくつかの激動の時期を乗りきってこられた方々もおられます。現在、五十嵐・旭町両キャンパスでは、老朽化した校舎の改修工事や新しい建物の建築が進められており、これまでの様相が一変しようとしています。ここに至るまでの発展をさまざまな側面から支えて下さった皆さんのご尽力に深く敬意を表し、心から御礼申し上げます。

現在の高齢化社会の中で、退職される教職員の皆さんはまだまだ若い年齢層に属しています。皆さんがこれまでに培ってこられた知識と技術

皆さんは常に冷静に、かつ多面的に
世の中をとらえることのできる国際感覚を
身につけていただきたいと思います。



でもって、これからも世の中に貢献できることは多々あるように思われます。今後とも健康に留意され、ご活躍されることを心からお祈り申し上げます。この4月から新潟大学では、退職教員に学生教育の面でご支援いただくため、「教育支援員」の制度を新たに設けることになりました。退職される教員の皆さんには、引き続き学生たちを指導していただきたいと願っております。

現在、社会が大きく変化する中で、大学も改革を強く求められています。平成16年4月に予定されている国立大学の法人化を前にして、新潟大学では教職員が一体となって法人化に向けた準備を粛々と進めているところです。大学が飛躍的に発展する機会と受け止め、未来を見据えた将来設計に基づき一歩一歩改革を進めていきたいと思っております。

新潟大学で行われている教育研究活動を広く公開しつつ、社会の発展に貢献することも大きな役割であると考えております。永年にわたって蓄積された大学の知的財産に一般市民や産業界の方々にも触れていただきたいと、これまでも各種の公開講座の実施、旭町学術資料展示室での学術資料や研究成果の公開、地域共同研究センターを通しての産学連携などに努めてきましたが、さらに、平成15年2月1日に新潟駅南キャンパス“クリック”を開設し、生涯学習や産学連携への支援をより一層効果的に実施する運びとなりました。

皆さんには、これからも健康に留意され、新潟大学を去られた後も、ぜひ機会あるごとにキャンパスに立ち寄られ、今後の発展ぶりを見ていただきたいと願っております。ここに人生の一つの区切りを迎え新たに出発される皆さんに、あらためて心からお祝い申し上げます。



卒業、修了



世界の様々な事物・人々との出会いは、二十歳前後の若僧に、強烈なインパクトを伴って迫ってきた。

人文学部行動科学課程4年
黒澤 慎太郎

学生の本分とはもちろん学業である。しかし、私の大学時代のもっとも大きな関心といえば海外を旅行することで、本業よりも、むしろそちらに精力を注ぎ込んでしまった。行き先は専らアジアで、春休み・夏休みだけでは足りずに、一年間休学してまで旅行にうつつをぬかしまくったのである。

世界の様々な事物・人々との出会いは、二十歳前後の若僧に、強烈なインパクトを伴って迫ってきた。それぞれが圧倒的な衝撃であり、それら一つひとつを消化して自分なりの認識を持つことは、旅行中においても、また帰国してからの生活の中でもあまりできていない状態である。

経験を消化するという意味で、私は、自分の中で未だ旅行は続いているのだと感じている。そして周囲への関心を広げることと経験に対して自分なりの認識を持つとするのだと感じている。そして周囲への関心を広げることと経験に対して自分なりの認識を持つとする態度は、社会に出ても持ち続けていくことだろう。自分の学生生活は学業中心ではなかった



が、それでもやはり意義深いものだったと私は思っている。

仲間の大切さ

教育人間科学部学校教育学専修4年
阿部 沙耶花

大学生活での思い出は何かと尋ねられたら、多くの人が旅行など、どこかに遊びにいったことをあげるのではないだろうか。しかし、私は、友人と夜通し語り合ったことや炎天下の中での部活など、ごく普通の日常生活の方が印象に残っている。他人から見れば、平凡なものに思えるかも知れないが、私にとっては、本当に楽しく充実した日々であった。



私がこのような充実した大学生活を送ることができたのは、陰で支えてくれた両親や先生方、そして、たくさんの仲間のおかげであると思う。最後の1年間は、教員採



出会った全ての人に、感謝の気持ちを忘れず、新しい人生を歩んでいこうと思う。

用試験、卒業論文と、勉強漬けの日々であり、投げ出したくなるのが何度もあったが、同じ夢に向かって頑張る友人や、笑顔で応援してくれる部活の仲間に支えられ、無事に卒業の日を迎えることができた。充実した大学生活を与えてくれた新潟大学と、出会った全ての人に、感謝の気持ちを忘れず、新しい人生を歩んでいこうと思う。

私が積み重ねてきた4年という日々

法学部法政コミュニケーション学科4年

飯田 真弓

私の学生生活はこの春大学を卒業することで終わります。学生生活の最後の4年間は、今までのものとは異なり、最も自由な、しかし同時に自分に対する責任が伴うものだったように思います。毎日自分が色々な選択をしながら積み重ねてきたもの、それが私の大学生活4年間になりました。その中には日常的な小さな選択から、1年の時の学部で主催されていたサマースクールへの参加、2年でゼミに所属したこと、3年での留学、それから就職活動といった、その後に影響を与えた大きなものまで様々でした。全ての場面で色々な人に出会って、その人達に助けられ、影響を受けてこの4年を過ごしてきました。この場をお借りして、みなさんに感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。ありがとうございました。これからも学生生活を続けられるみ



本人最前列左から2番目

なさんには、毎日が選択の積み重ねであることを意識して、様々なチャンスに貪欲であってほしいと思います。

1つの旅を終えて

経済学部経営学科

三澤 貴裕

4年間の大学生活を振り返ると、ある種、長い旅をしてきたように思える。新潟という限定された1地方において、様々な地方の人、様々な年代の人と知り合い、そして交流を深めることができた。しかし、思い出といえる思い出は浮かんではこない。この人達との交流は、いつしか自分の生活の一部として当たり前のものとなっていた。このことを表す1つとして、自分の話し方が、新潟の言葉遣いと関西の言葉遣いとが混合したおかしな話し方になってしまった。このくだらないことを始め大学生活で得たものの集大成は、今の自分にすべて表われている。まだ、この穏やかに流れつつ刺激が多かった旅と、そして今の自分でいたいということに未練はあるが、卒業とともに、それらとさよならしなくてはならない。これから新しい旅に出るにあたって、この未練を忘れられるくらいよい旅、よい自分に出会えればと思う。



本人中央

自分の話し方が、新潟の言葉遣いと関西の言葉遣いとが混合したおかしな話し方になってしまった。

毎日自分が色々な選択をしながら積み重ねてきたもの、それが私の大学生活4年間になりました。

卒業、修了



学生であるが故にある心のゆとり。
それを忘れず、十分に考えながら
医療をしていきたい。

嗚呼、素晴らしき学生生活

理学部数学科

小野塚 真紀

あっという間の四年間だった。勉強はテスト前にするくらいで、あとは友達と遊んで、バイトをしてみたり、そんな四年間だった。学校に行きたくない日もあった。それでも私は学校が好きだった。学校に行けば友達がいるし、学食のご飯は美味しい、なにより学校には楽しいと思えるなにかがあった。

大学に入学する前、大学生になったらあれこれしようと思いつめていた。あんなにがんばって勉強しようと思っていたが、勉強はあまりしなかったと思う。残るのはテスト勉強がなかったことと、授業が長かったことのみ。思いが達成できたかどうかは、自分でも疑問である。それでも「よくやった」と自分をほめてあげようと思う。

学生って素晴らしい！このことが大学生活で一番感じたこと。私はあと二年間の学生生活の猶予を求めて、大学院に進学します。今度こそ勉強をしよう。さて、このことは達成されるのでしょうか？



学校に行けば友達がいるし、
学食のご飯は美味しい、
なにより学校には楽しい
と思えるなにかがあった。



心のゆとりを忘れずに

医学部医学科6年

栗田 学

今、我々は学生であるが故の心のゆとりがある。講義に出席し、テストに合格すること以外は「義務」がないからである。

部活、バイト、趣味に明け暮れた6年間。楽しい、楽しい学生生活だった。



僕らは4年の終わりから、病院実習で実際の医療現場を見学することができた。先輩の先生方はとにかく忙しそうだった。学生は担当患者さんが1人であるが、医師になると何人もの患者さんを診なくてはならない。

忙しいばかりであると、自分のことで精一杯になり、患者さんのことまで考えられなくなる。それでは良い医療ができるはずもない。

僕らは来年から人生で一番忙しいである

う研修医時代に突入する。学ばなければいけないことが山ほどある時に、効率を要求される。

学生であるが故にある心のゆとり。それを忘れず、充分に考えながら医療をしていきたい。卒業するにあたって一番切に願うことである。

卒業にあたって

歯学部歯学科6年
出口 知也

歯科医師国家試験まで100日をきった、2002年12月下旬に、「卒業にあたって」という内容で、本誌の原稿の依頼がありました。試験勉強や卒業祝賀会準備、臨床実習引継などに追われる毎日で、文章を書く準備は全くと言っていいほどしていませんでした。しかし、その方が、現状を反映した「生々しい」文章が書けると思い直し、ペンをとった次第であります。

私に限ったことではありませんが、歯学部6年生の秋～冬は、まず何よりも、「国家試験」のことで頭が一杯であるように思っています。6年間の学生生活においても様々な出来事がありました。過去を振り返っている余裕はほとんどありません。

国家試験が終わり、桜が咲く頃になれば、少しは昔のことを思い起こすゆとり



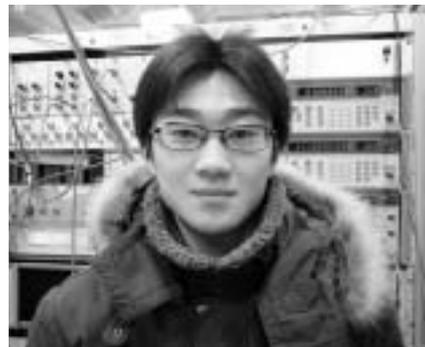
もできるであろうと思われま。個人的なことですが、私は大学院に進学し、来年度（平成15年度）も本学に残る予定です。その頃に、本誌に投稿する機会をいただければ、もっといろいろと書けると思います。

今回はこれで失礼させていただきます。すみません……。

卒業にあたっての思い

工学部機能材料工学科4年
星野 友孝

私は当初この学科に入ったことを、とても後悔していました。授業は退屈で、寝るか、さぼるか、途中で抜け出すかのどれかでした。それは私に目的が無かったからです。一方、部活や遊びでは、充実していたと思います。しかし必死で働いて仕送りする親や、高校を卒業して就職した妹や友達のことを考えると、いつも自分が情けなく思っていました。大学2年の春休み、インドのガンジス河で10歳くらいのボート漕ぎの少年と仲良くなり、わらでできた家に招待されました。「お兄ちゃん、学校で何を勉強してんの？ 僕お金ためて学校行きたいんだ。」私はショックで、その時自分の今までの学校生活を考えさせられました。受験に失敗したことでずっとマイナス思考だったことに気づき、そしてそんな私に目的を持つきっかけを与えてくれたその少年との出会いは、この4年間の中で一番大切な思い出です。



「お兄ちゃん、学校で何を勉強してんの？ 僕お金ためて学校行きたいんだ。」
私はショックで、その時自分の今までの学校生活を考えさせられました。



国家試験が終わり、桜が咲く頃になれば、少しは昔のことを思い起こすゆとりもできるであろうと思われま。

卒業、修了



出産を終えられたお母さんからの感謝の言葉や、誕生した赤ちゃんのしぐさや、表情には癒され、勇気をもらいました。

大学生活を振り返って

農学部農業生産科学科

小平 健彦

僕にとっての大学生という四年間は、社会人になったというわけでもなく、かといって義務教育を受けるわけでもなく、なんとも不思議な期間だったと思います。一般に大学生活とは自分のやるべきこと、やりたいことは自分の力で探さなければならないと言われておりますが、僕の大学生活を振り返ってみるとその言葉どおりになっていたとは言い難いかも知れません。しかしながら、農学部、そして専門の大講座に入り、講義や調査実習そして卒論研究といういろいろな機会を経験することで、自分の力で学ぶべきものを探し出し、そして将来への目標を創り出すことができたように感じています。また、専門講座での二年間、様々な場面で迷惑をかけてきたと思いますが、それでもこんな僕を支えてくれた講座の先生方と友人達には心から感謝しています。僕も卒業し、実社会に出て行くわけですが、大学で経験したことは今後の人生の大きな糧となると信じております。お世話になった教員の皆様、本当にありがとうございました。



本人左から3番目

卒業にあたって

医療技術短期大学部専攻科

小田切 恵美

私が専攻科に入学してから、あっという間の1年が過ぎようとしています。1年間という、とても短い期間でしたが、非常に充実し、有意義な時間を過ごすことができました。特に、出産という女性の人生の中で、かけがえのない時間に立ち会えたことは、一生忘れられない経験になりました。出産を終えられたお母さんからの感謝の言葉や、誕生した赤ちゃんのしぐさや、表情には癒され、勇気をもらいました。また、分娩待機室で、友人と語り合ったことは、楽しい思い出となりました。

その他に、専攻科ではリプロダクティブ・ヘルツ/ライツを始め、女性の身近な健康の支援者としての勉強もしました。今後、多くの女性が、自分らしい生き方がで



前列向かって右から2人目

大学で経験したことは今後の人生の大きな糧となると信じております。



きるような、支援・活動をしていきたいと思えます。

最後にこの1年間を充実して過ごせたのも、病院のスタッフの皆様、先生、友人に支えていただいたからだと思います。この感謝の気持ちを忘れず、医療の現場で頑張っていきたいと思えます。

修了にあたって

大学院自然科学研究科情報・計算機工学専攻
平林 和訓

新潟大学に入学してから6年の歳月が過ぎようとしている。大学院に入学したのが数カ月前ではないかと思うほど早く時が過ぎ去っていった。

大学院での2年間を振り返ってみると、入学前に思い巡らせていたことが実際には自分の努力不足もあり、考えていたように行動ができなかったように思う。今となつては、あの時もっと勉強をしておけばといったような後悔が数多く残り、自分の力のなさを痛感している。

しかし、次の活動の場で、この後悔をバネに飛躍できたのならそれだけでもここで学んだことが大きな意味を持ち、自らの糧となり2年間で学んだことは決して無駄ではなくなると思う。

このような私だがこうして無事に修了を迎えられたのも時に厳しく、時に優しく御指導下さった先生方、理解ある同期の院生、



また多くの友人たちに支えられてきたからだと思う。今後、後悔しないよう、できる限り最大限事に取り組み、納得のいく結果を出せるよう努力していきたいと思う。

20年の回帰

新潟大学現代社会文化研究科・日本社会文化論専攻
松田 陽介

新潟大学医療技術短期大学部を卒業したのが20年前、愛知大学法学部を卒業したのが15年前、新潟大学法学研究科を修了したのが3年前、そして現在、現代社会文化研究科の修了となった。村上の鮭ならば5年もすれば立派な成魚となって帰ってくるのであるが、20年の歳月を経た私は、いまだ成長途上の幼魚のようなものである。

素晴らしい、先生方・諸先輩・学友・その他大勢の方々のご指導やご協力により、やっと学問という大海に泳ぎ出す準備と勇気が見えてきたという段階である。

今日、大学の制度改革や独立法人化という大波が大学にも押し寄せてきているようだ。しかしなが

ら、新潟大学の持つ特性や文化が継続されることを願いたい。なぜなら、広大な海を回遊して、回帰するときに母なる川が変質していたら、遡上してきた鮭達はふるさどが特定できなくなってしまうからである。

それでは、また回遊の旅に出ます。そしてまた回帰してきます。それまでさようなら。



新潟大学の持つ特性や文化が継続されることを願いたい。



あの時もっと勉強をしておけば、
といったような後悔が数多く残り、
自分の力のなさを痛感している。



退官



現場の教師と勉強会を組織し、
今では常識になっている伝達能力重視の
英語教育の手法を新潟の地から全国に
広めていくこともできました。

充実した35年間

教育人間科学部教授
高橋 正夫



赴任したのは旧教育学部の高田分校でした。現在は取り壊された跡形もありませんが、師範学校の面影が強く残る白亜の三階建てと戦時中は師団司令部であった明治期の建物が高田城址の森と堀に囲まれて立っていました。教官数40そこそこの少人数所帯でしたから、良きにせよ悪しきにせよそこでの人間関係は現在から想像もつかないくらい密接なものでした。若手が集まって一般人立ち入り禁止の土手に登り、夜桜見物の酒宴を開いたのも懐かしい思い出です。時は学園紛争のただ中で、団交を称して学生たちが老教授に「てめえ」と詰め寄る場面赴任早々に目撃して、びっくりしたものです。授業時間の一部を政治討論の場に割くように要求されることもしばしばでしたし、学生の襲撃を警戒して入試問題を保管した金庫の前で寝泊まりしたこともありました。当時は豪雪が続き、共通一次試験が開始されると解答用紙が信越の県境を越えるまで電話から離れなかったことを思い出します。専門領域では、現場の教師と勉強会を組織し、今では常識になっている伝達能力重視の英語教育の手法を新潟の地から全国に広めていくこともできました。想い出は美化され易いのですが、こうした熱気は独立法人化をひかえた機能と効率化の風潮の中でも消え失せて欲しくないもので

す。最後に、充実した35年間で過ごさせて頂いた本学教職員の皆さまに心から感謝する次第です。

幸せを多謝

教育人間科学部教授
大橋 勝男



新潟大学に教職を得、
次の三点から大変幸せ
だった。

一つは、筆者の研究の立場から。新潟県方言は、日本東西方言の接境方言。扇の要。日本の方言究明のためには、当県方言の究明が、まさにツボを押さえることにつながる。居ながらにしてそれが可能となったのである。当県方言の研究は、筆者の方言諸研究の中で、一つの大事な柱となってきた。

二つは、筆者の教育活動の立場から。学生が、学部生・院生共々、実に優秀で真摯だった。おかげで、授業が楽しくやりがいがあった。その中で、特に現社研究生六名の博士学位取得者（プラス一名も取得するはず）を育てたことは、大幸である。

三つは、本学の風格の立場から。新潟大学は、世間から拠点大学として立派な、格の高い大学と受け取られている。筆者もそう思え、誇りを持つことができた。全国諸地、方言調査に訪れた先々で、「新潟大学の者」ということばで、さっそく信用され、好意的に待遇された。



学生が、学部生・院生共々、
実に優秀で真摯だった。おかげで、
授業が楽しくやりがいがあった。

留学生達も、本学の格をわきまえ、本学に学ぶことに誇りを持ち胸を張ると同時に、その大学の先生ということで、不肖筆者をも信頼し、畏敬の態度でついてきてくれた。

それらこそ、新潟大学の恵んでくれた幸せである。終始その幸せの道を歩み続けることのできたことに、心からの感謝を覚える。新潟大学及び関わりのあった方々にその微意を謹んで呈し、大学及び各位のいっそうの充実・発展を切に祈り申し上げます。

退官にあたって

教育人間科学部教授
吉岡 智晃



1963（昭和38）年4月、当時の教育学部高田分校に赴任して以来、ちょうど40年が過ぎ去りました。1981（昭和56）年4月の統合を境に、前半を、雪深い高田（現上越市）で、後半を新潟で、という形でしたが、長期間だったはずなのに「早いもので」という思いを強く感じます。

特に分校時代には、教務委員、入試運営委員をよく仰せつかりましたが、それが尾を引いたか、入学者選抜方法研究委員会委員を、共通一次導入時から引き続きやってきたこと。まさかと思っていた、附属長岡小学校校長の職を、2期4年間勤めたこと。教育学部教官という立場上、附属校をはじめ

め小中高の教育現場とかかわることが、赴任当初から多く、結局、新潟県数学教育協会会長の職まで引き受ける形になったこと。

当初、微分位相幾何学を研究分野にしていたが、行き詰まったためグラフ理論に転向し、それが特に中学校での教材開発につながったこと。ちょうど30年間、約150名になるゼミ生との、「よく学びよく遊べ」をモットーにした学び合いとつきあい。

などなど、忘れられない思い出が無数にあります。

本学でのこのような充実した40年を保障して下さった先輩同僚諸氏および学生諸君に深く感謝の意を表し、合わせて、新潟大学の益々のご発展をお祈り申し上げます。



「よく学びよく遊べ」をモットーにした学び合いとつきあい。忘れられない思い出が無数にあります。ちょうど30年間、約150名になるゼミ生との、

退官



同僚と協力して英語教員として
卒業生を数多く
世に送り出すことができました。

退任にあたり

教育人間科学部教授
米山 朝二



遠方からの来訪者が一切ならず口にした言葉が2つあります。1つは「キャンパスが広いですね」です。夏であれば「海が見えていいですね」と日本海を見渡して感嘆します。私は「佐渡も見えますよ」と言葉をつなぎ、時には研究室よりもっと眺望の開ける教室に案内することもありました。もっとも、このところの建設ブームで「広い」が「狭い」に代わるのもそう遠くないかもしれません。それはそれで、大学の繁栄を意味すると解釈すればよいことでしょう。

もう1つは「こちらの学生さんは親切ですね」です。「教育はどこですかと尋ねたら、玄関まで案内してもらった」と感謝されたこともあります。最近、構内の案内板が完備したのでわざわざ学生に尋ねる必要もなくなったのか、あまりこの言葉を聞くことはなくなりました。しかし、親切な学生の数が以前同様であることを信じています。

新潟大学に勤めてから34年になります。この間、振り返ってみると、期せずして、かなりの頻度でこの地から英語教育の情報を全国に発信する機会を得たことになりました。また、同僚と協力して英語教員として卒業生を数多く世に送り出すことができました。ささやかであっても、こうしたよい思い出とともに本学を去ることを有り難く感じております。大学のさらなる発展を願い、感謝の言葉といたします。

ありがとうございました。

地球はふるさと

教育人間科学部教授
田中 祐次



私にとってこの新潟大学は4つ目の勤務校でした。大学教師として初めて勤務したのはお隣の県でもある長野県の信州大学の教育学部でした。すでに28歳でしたが、戦争中子ども時代に疎開で東京を離れたことしかない東京生まれの東京育ちの私にとって、東京を離れての地方の生活はいろいろな意味で新鮮でした。

勤めて11年目に得た在外研究の機会は私の人生にとってさらに大きな衝撃を与えるものでした。私の専攻分野である集団心理学はもともとは社会心理学に属する分野で、社会心理学的に世界を見ることにはなれているはずだった私でしたが、私にとってそれは初めて「地球を見た」と等しい経験でした。帰国後私は誘いに乗り当時初めてといわれた文科系の「情報学部」を開設した文教大学に勤務することになりました。2つ目の大学でした。大学間人事交流の促進に協力することも考え、また異なる世界を経験したいという好奇心にも誘われ、その後鳴門教育大学をへて4年前この新潟大学にご厄介になったわけですが、はからずもこの新潟の地は私の両祖父誕生の地でもあり、私の中のDNAが私をこの地に呼び戻したような感じをうけました。し



かし今、私にとってはこの日本が私のふるさとなろうとしています。どこへ行っても私を親しく受け入れて下さったたくさんの方々がおられました。その方々に私は心から感謝しています。有り難うございました。

学窓

経済学部教授
横山 和彦



私の研究室からは日本海が臨め、そのさきに佐渡がみえる。海に落ちる夕陽は、太平洋側ではあまりみることができない。授業の終わったあとノドを潤しながら、海に沈む夕陽をみることは、まことに爽快である。このことを16年間楽しんできた。このようなことができた研究室は、冷房がなくても世界一である。この研究室をさることは、大変さびしい。

私は、社会保障、社会政策を大学卒業以来研究してきた。学窓のなかの生活しか経験していない。私の研究は、いわば講壇社会保障・社会政策であろう。

資本主義社会の最大の社会問題は、失業である。その失業が、10年余も国民経済そうして国民生活を脅かしている。ところが、最近経済学、社会保障の中心になっている学派は、失業問題にかんする意識が軽薄である。社会保障は、完全雇傭を生存保証の絶対的的前提条件としている。このような学統の確立を試みたいものである。

東京生まれの東京育ちの私にとって、東京を離れての地方の生活はいろいろな意味で新鮮でした。

退官にあたって

理学部教授
宮野 和政



1969年4月に東京大学理学部より新潟大学理学部物理学科に赴任以来34年が瞬く間に過ぎてしまいました。当時、物理学科は拡充組織が将に始まったところで学科の志気がとても高く雰囲気は開放的で、私は新鮮な気持ちで新設間もない歯学部新入生への初等物理学の講義を受け持ちました。当時、新潟大学は理論実験両面で原子核物理学を志向する唯一の新制大学でした。その新潟で原子核実験物理学を専攻することに気持ちを高揚させ、大学院生と共に力一杯働きました。それも時経てマンネリズムを感じるようになり、1979年に高エネルギー実験に研究分野を移しました。その最初の実験で核子が溶けた宇宙初期の状態を実現したかもしれないと思われる結果を得て幸先のいい出発をしました。ついで陽子崩壊という大きなテーマでカミオカンデの装置を建設しました。1987年超新星爆発のニュートリノ観測に成功した時には建設の苦労も喜びと興奮で吹き飛んでしまったことを今も鮮やかに思い出します。これがリーダーであった小柴さんへの2002年ノーベル物理学賞受賞となったことは、退官直前の私への大きな贈り物でした。

清潔で整った新潟市、瀟洒な農村風景...と自然の豊かな新潟で多くの志気の高い学生と同僚の先生方に恵まれたことは感謝しても感謝しきれません。これら学生諸君や諸先生方に支えられた研究と教育の経験は次の新しい生活へ飛び込む私の勇気となっています。



自然の豊かな新潟で多くの志気の高い学生と同僚の先生方に恵まれたことは感謝しても感謝しきれません。



この研究室をさることは、大変さびしい。

退官



放射線物理学を主として担当し、
1000人余りを診療放射線技師として
世に送り出しました。

定年退官にあたって

理学部教授

小俣 三郎



1971年6月理学部に赴任以来、32年にもおよぶ歳月の経過を振り返ってみると、全体的にはそれ程長い時間が経過したとは感じられません。これは多分私の脳が次第に老化して、新しい記憶の定着能力の低下に加えて、経年的な記憶の脱落や希薄化が進んでいることが原因であり、更に個々の記憶に関する能力だけでなく、全体的な統合能力も低下していることにもよると思われます。

それにも関わらず、私の脳にプリントされている「年代記・新潟編」を通覧しますと、二つのことが見えてきます。第一は良き学生の皆さんに恵まれたことで、それぞれの時代に特徴的でそれぞれ個性的な皆さんが私を刺激し、触発し、鍛錬して、そうでなければ全く怠惰な教師で終わったであろう私に対して、絶えず問題提起をしてくれたことに深く感謝しています。第二は良き教職員の皆さんに恵まれたことで、それぞれの職種と個性に応じてご指導・ご鞭撻いただき、支えていただいたのみならず、私のような者を理解しようとして下さった多くの方々に心から御礼申し上げます。

有り難うございました。

全く怠惰な教師で終わったであろう私に対して、絶えず問題提起をしてくれたことに深く感謝しています。



新潟大学在職39年を 振り返って

医学部保健学科教授

飯田 恵一



昭和39(1964)年4月から平成15(2003)年3月まで39年間、本学でお世話になりました。最初の10年間は理学部物理学科、残りは医療技術短期大学部診療放射線技術学科と平成11年に発足した医学部保健学科を含めて29年間です。

理学部着任早々に新潟地震に見舞われました。西大畑キャンパスにあった理学部の被害はさほどではありませんでしたが、市内の被害は甚大で、何カ月も仕事にならなかったことを思い出します。

しばらくして、たこ足大学という異名をもつ本学を統合移転する話が持ち上がりました。移転先が大根やスイカ畑であった今の五十嵐キャンパスにほぼ落ち着いた頃に、折悪しく、全国に吹き荒れた大学紛争の嵐が本学にも到来。教養部校舎ができるまで大変な苦勞がありました。それが今、大改修工事が行われているのを見て感慨無量です。

その後、医療技術短期大学部に身を移し、最近創設された医学部保健学科を含めて29年間、放射線物理学を主として担当し、1000人余りを診療放射線技師として世に送り出しました。ここは学生の名前や顔は全

員覚えてしまうほど、学生と教員の距離が近く、親しみのもてる所でした。しばらくバスケット部の顧問もしましたので、他学科の学生とも親しく接する

ことができたのも楽しい思い出になります。
長い間、本当にありがとうございました。
本学のますますの発展をお祈りします。

凄い力

工学部教授
田村 久司



入社して2年目を終わろうとしていたとき、助手として大学に戻らないかという誘いを受け、それに応じて以来、41年間、本学工学部に籍を置くこととなった。その間に修士課程設置、共通一次試験、移転、改組、博士課程設置、教養部廃止などがあったが、私には移転が強く印象に残る。それは、その頃は博士論文をまとめていた時期であり、加えて教育・研究の中断なき研究室移転、家の引越し、子供達の転校などが重なっていたからであろうが、学位論文の骨子が固まっていたためかすべてがそれなりに何とか始末できたのは幸いであった。

移転作業が終わって工学部内を回ったとき、移転を計画された先生方の計画力に驚いたが、それを実行に移した事務方の力に官の力の凄さを感じた。私は昔、仙台市内から青葉山に移転した直後の東北大工学部に内地留学していたが、そのとき日本の歯車研究の礎を築かれた大先生が研究室を訪ねて来られ、「山を削り、谷に橋をかけ、立派な建物を作るというこれだけの仕事をする官の力は凄いものだ。その力は一研究室の力の及ぶところではない」と言われたことを思い出した。

いま、官の力によって、大学改革、独立法人化、JABEE、COEといろいろな施策が進められているが、各教員の教育・研究を中断することなく、本学がこれらに発展的に対処されることを期待する。

新潟大学の 発展を願って

農学部教授
内山 武夫



私は、戦後産声を上げた新潟大学農学部で、8回生として入学しました。当時は、各学部ともに古ぼけた木造の建物で、いわゆる「タコの足大学」でした。教養課程の講義は人文学部、理学部に間借りで、現在の五十嵐キャンパスを見る時、当時が夢のようです。

私は卒業後数年間、実社会でもまれ、その後母校の教員として学生諸子と共に歩んだ30有余年でした。この度、退職に当たり、とにもかくにも長い人生の中の最も大きな峠を越える事が出来たのは、恩師や諸先輩のおかげと、心から感謝するしだいです。

在職30有余年を振り返ったとき、けっして平坦ではありません。特記すべきは昭和40年代前半の「大学紛争」と「統合移転」が上げられます。「大学紛争」は右肩上がりの経済成長期の中で、大きな社会問題となりました。若く助手であった私も彼らを理解しようと、夜遅くまで話し合った事が思い起こされます。また、全教職員が真剣に紛争解決にあたりました。その結果、この紛争が農学部のその後の運営を開かれたものになっています。

創立以来55年を経て、本学の「中身」も充実し、「入れ物」も良くなった今、吹荒れている大学改革の契機は少子化と経済不況であり、現実には文部科学省による押し付けかもしれません。また、教職員にとって国立大学の法人化は多くの面で、これまで経験の無い改革です。

今また打ち寄せるこの波を、教職員の英知を集めて乗り越え、新たな新潟大学が創造されんことを願ってやみません。



移転作業が終わって工学部内を回ったとき、
移転を計画された先生方の
計画力に驚いたが、それを実行に移した
事務方の力に官の力の凄さを感じた。



「大学紛争」は右肩上がりの経済成長期の中で、
大きな社会問題となりました。
若く助手であった私も彼らを理解しようと、
夜遅くまで話し合った事が思い起こされます。

退官



豊かな自然と優しい人情に囲まれて過ごした
20年余の教育・研究・診療生活は、
私の素晴らしい思い出であり、財産です。

退官に臨んで

大学院医歯学総合研究科教授
岩久 正明



昭和57年11月、歯学部歯科保存学第一講座（保存修復学・歯内療法学）担当として、東京医科歯科大学から赴任してきました。11月3日、新潟空港に降り立った時の夕日、寄居浜から見た落日は今も瞼の奥に鮮明に残り、それより美しく、感動的な落日は、それ以前も、それ以後も記憶にありません。豊かな自然と優しい人情に囲まれて過ごした20年余の教育・研究・診療生活は、私の素晴らしい思い出であり、財産です。

当地の落ち着いた環境は、じっくりと腰を据えて仕事に取り組める最高の条件で、喧騒の東京で思い巡らしてきたテーマに心置きなく情熱と青春を注ぐことができ、いまだに学生諸君と共に目を輝かせて青春真っ盛りです。卓球部顧問として、練習後に狭い官舎にぎゅう詰めになって学生諸君と杯を交わし、時には他の部や他大学の学生も混じって、人生を語り合った素晴らしい思い出が一杯です。

最終講義としてお話する、「新潟より世界に発信 21世紀のカリオロジー」を可能にしてくれたのは、新潟の自然であり、

よき先輩、よき仲間、よき後輩の皆様です。よき日本酒、よき米、よき人情も言うに及びません。

私の所属も、昨年より大学院医歯学総合研究科と発展し、独法化等に向かって全学の努力が結集されている今日、優れた皆様の英知の結集による更なる発展を期待しています。

「25年の思い出を胸に」

新潟大学脳研究所教授
佐藤 徳光



昭和52年9月1日付の発令で私は初めて新潟へやって来ました。特急列車「とき」の隣席にどこかの転勤家族が乗り合わせ、その夫婦の会話が耳に入ってきました。最初は新しい土地での生活に話題が弾んでいましたが、長い長いトンネルを抜け湯沢に入ると、天候の急変に驚いたのでしょう、奥様は急に曰く「おとうさん、わたしはここに住めませんわ!」。ご主人しばらく声無く大変沈んでおりました。新潟駅に着いた私は早速タクシーに乗ったのですが、どういう訳か田中



動物実験施設の近代化と動物福祉に配慮した
適切な動物実験の実現に向け日々格闘した
25年でした。

元首相の話になり、私がいあまり誉めた話をしなかったばかりに運転手さんから本気で怒られました。これも今は過ぎし日の思い出です。

たしかに、北国の冬は長く、じっと春を待ち侘びる人々は少々根暗にもなります。その分、春の喜びはひとしおで、3月半ばには荒海も急に色を和らげ、晴れた日には佐渡もよく見えるようになり、海辺にはニセアカシヤの花の香が漂い、まもなく祭りの夏を迎えます。住めば都、海の幸、山の幸にも恵まれた良い土地柄です。積もった雪のお陰で美味しい米や酒もできるのですね。

私はこの25年、新潟大学旭町キャンパスで働かせて頂きました。動物実験施設の近代化と動物福祉に配慮した適切な動物実験の実現に向け日々格闘した25年でした。今、なんとかその任を終え無事に定年退官できますのも、偏に皆様からのご厚情、ご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

最後に、皆様のご健康と新潟大学の益々のご発展を祈念し、退官の挨拶と致します。



たて看板がない 大学？

積雪地域災害研究センター教授
佐藤 修



1957年大学に入学して以来、今日まで46年間大学と係わってきた。この間大学はいろいろな点で変わった。大きく変化したものの一つが大学入り口付近の風景である。私の大学生時代は、大学の入り口にはいつも 反対闘争の立て看板を見、毎日のようにビラを受け取っていた。私自身が1956～60年は連日ビラを作りビラ配りをし、「安保反対・岸倒せ」と叫んでデモをしていた。1966年に大学に勤めるようになって学生ではなくなったのだが、1968年に世界中で起きた学生運動の波は日本にもおよび、いわゆる全共闘闘争に巻き込まれた。同じ時期に、ベトナムに平和を！市民連合（ベ平連）による反戦市民運動なども重なって、大学は立て看板とビラでとても汚いところであった。今それが無くなって、どの大学も綺麗になった。

1968年には、アメリカ合衆国でも、ベビーブーマー達が世界史上まれな自国の軍事行動を批判する運動を起こした、カリフォルニア大学バークリー分校の学生反乱である。パリ大学から始まった五月革命も、根っこにベトナム反戦があったように思う。1973年にベトナム戦争が終わって、学生運動はしずかになり、たて看（板）もまれになってきた。

今、アメリカ合衆国大統領はイラクを攻撃する準備をしている。超大国一国時代にはもう学生によるたて看板を使った運動は起きないのだろうか？たて看板は古いよ！「E-メールがあるさ」なのだろうか？



大学は立て看板とビラでとても汚いところであった。
今それが無くなって、どの大学も綺麗になった。

「ビタミンCと健康 - ビタミンCの抗酸化機能を中心に - 」

講師：新潟薬科大学応用生命科学部食品化学科・食品栄養科学研究室 倉田忠男教授



平成14年11月21日（木）教育人間科学部の105講義室において新潟薬科大学応用生命科学部食品化学科・食品栄養科学研究室の倉田忠男教授（元お茶の水女子大学生生活環境研究センター長）による全学講義が行われました。学部内外から多数の聴講者が集まり講義室は立ち見ができるほど盛況でした。

本講義は大学院生でも満足できる内容に設定されていたため、難解なところもありましたが、講師の明快な話術で大変興味深く聞くことが出来ました。講義内容の一部を以下に紹介します。

ビタミンCは化学名をL-アスコルビン酸L-Ascorbic Acidと言い、「A」はanti抗、「scorbic」はscorbutic壊血病の、抗壊血病作用をもつ因子として知られている。ヴァスコダ・ガマの航海記に歯茎が出血すると同時に、倦怠感と食欲不振が生じたことが記されているが、ビタミンCの食欲維持作用は非常に大切である。

ビタミンCの生理学的機能（抗壊血病作用、食欲維持作用、皮膚・目などの酸化障害抑制、動脈硬化抑制、発がん抑制）や生化学的機能（コラーゲン、エピネフリンやカルニチンなどの合成反応における補酵素的作用）は、ビタミンCの持っている「還元性が強い」ということ、それと裏腹にある「抗酸化機能を持っている」、例えば「電子を与えやすい・水素を与えやすい」、そういった化学的な機能が基本にあり、それによって支えられている。

ビタミンCと健康の関連を考える上で最終的に大事なのは「ビタミンCの持っている構造を私たちがどこまで理解できているのか」ということである。すなわち、ビタミンC分子は親水性部分と比較的疎水性部分からなっており、細胞膜、細胞質いずれでも抗酸化作用を発揮できること、ビタミンCには解離型と非解離型があり反応性や安定性が異なり、ビタミンC濃度や溶液のpHに影響されること、抗酸化性の基礎として、ビタミンCの自動酸化機構とラジカル消去活性を理解することだ大切である。

さらに、ビタミンCの作用だけでないこと、つまりビタミンCは非常に壊れやすい、壊れていったい何になるのか、そしてその作用はどうなのかということも考慮する必要がある。



ビタミンCと生活習慣病の関連として、生活習慣病は、エネルギー源である糖質・脂質の長年月にわたる摂取、特に過剰摂取に起因し誰でもが必ずなるものである。生活習慣病になり始め、あるいはなってから問題になるのは酸化ストレスで、それは活性酸素種が関与する。これを抑えるのがビタミンCの抗酸化作用である。糖尿病患者では高血糖のためグルコース輸送体を介するビタミンCの細胞への取り込みが妨害されるためビ

タミンCが不足しがちである。そのため神経障害、網膜症、腎症など糖尿病合併症の進行が抑制されにくくなる。血清ビタミンC濃度が低い者は、その後の脳梗塞、出血性脳卒中の罹患リスクが高いことが疫学調査でわかっている。

最後に先生は、「ビタミンCに関しては基本的なところはかなり解ってきています。でも本当の意味での結論は出ていません。まだまだ研究が必要です。健康の基本は適正な食生活にあります。食品は生存に必要な物質であり、ビタミンCはそのひとつに過ぎません。ビタミンCの話をしましたが、ビタミンCだけでいいと思わずに、総合的にお考えいただければと思います。」と述べられた。

全学講義の聴講生から、「自分の知らなかったことを、その専門の人から教えていただく楽しさや感動を、この全学講義を受けて改めて感じた。一つの物事はすごく深いものを持っていて、それを掘り下げていく喜びはすごいし、それを研究し続けている人は尊敬できると感じた。」という感想がよせられました。

(文責：教育人間科学部生活環境学科 教授 小谷スミ子)

「理学部コロキウムの実施について」

最近、学問分野や学部・学科の壁を越えた学際的な研究プロジェクトの推進が話題になることが多い。しかし、現在理学部内ではどのような研究が進められ、どのような成果が得られているのかということに関しては、その教員の周辺の関係者を除いてあまり知られていないのが現状である。学問分野の壁を越えた新しい研究の立ち上げを視野に入れて、将来計画検討委員会では以下のような趣旨で理学部コロキウムを開催することにした。

- 【目的】 教員が行っている研究を知ることを通して、教員同士の相互理解を深める。
教員の研究内容を大学院生・学部生にも知ってもらう。
理学部教員が一体感をもって研究に取り組んでいることを実感する。
- 【発表方法】 専門の細部のみを紹介するのではなく、研究の背景・意義なども他学科の教員や大学院・学部生が理解しやすいように工夫して紹介する。
- 【開催日時】 水曜日、午後3時～5時、年6回程度。

第1回コロキウムは平成14年12月11日(水)に合同講義室で開催された。講師と演題は以下の通りである。

明石重男(数学科教授)

「計算機科学への数学の応用」

酒泉 満(自然環境科学科教授)

「オスになるための王道はあるのか? - メダカで発見した脊椎動物で2つめの性決定遺伝子 - 」

出席者は大学院生・学部生含めて60名程で、活発な質問があって予定時間を延長して終了した。

第2回コロキウムは平成15年1月22日(水)に理学部B棟3階合同講義室で開催された。講師と演題は以下の通りである。

土屋良海(物理学科教授)

「高温液体の構造変化と濃度揺らぎの熱力学」

細野正道(大学院自然科学研究科教授)

「免疫系の自己確立と胸腺 - なぜ自分の皮膚(臓器)は拒絶されない? 」

新大広報 BackNumber

- ▼143号 <特集：卒業、退官>
- ▼144号 <特集：大学生活入り口ガイド>
- ▼145号 <特集：新潟大学とは何だ！>
- ▼146号 <特集：新潟大学を探索する>

バックナンバーが欲しい方は、事務局の学生部学生課まで受け取りに来て下さい。新大広報のバックナンバーは、<http://ksws1.ge.niigata-u.ac.jp/kouhou/>でも見ることができます。大学の魅力を先輩たちが語っています。ぜひ、どうぞ。

お知らせ

新潟駅南キャンパス
2月1日オープン

愛称は「CLLIC」

新潟大学の教育研究成果を地域の方々と共有するため、学生や受講者の皆様にとって利便性の高い新潟駅南口「ブラーカ3」地下1階にキャンパスを設置し、各種講座を開設しました。また、新潟大学を始め県内国立大学の新たな教育・情報発信拠点とするものです。

生涯学習のための公開講座、人材養成のための各種講座、県内国立大学からの情報発信、技術相談・教育相談などの住民サービス、社会人学生向けの授業、高校生向けの体験授業などを行ないます。

この新潟駅南キャンパスの主要目的である「生涯学習と産学連携のためのキャンパス」の英文「**Campus for Lifelong Learning and Industrial-academic Co-operation**」の頭文字をとったもので「クリック」と呼びます。

パソコンで気軽にCLICKして新しい情報が展開するように、このCLLICも皆様から気軽に扉を開いてお越しいただき、新しい発見をすのお手伝いができるようにとの願いが込められています。

ぜひお気軽にお立ち寄りください。

お問い合わせ

新潟大学学生部学生課
〒950-2181 新潟市五十嵐2の町8050番地
TEL 025-262-7330

新潟駅南キャンパス「CLLIC」

〒950-0917 新潟市天神1-1 ブラーカ3地下1階
TEL 025-241-9119 FAX 025-241-9122
E-mail cllic@adm.niigata-u.ac.jp

新潟大学広報誌 学生編集委員 募集!!

自分で投稿した記事や写真がどのようにしてできるか。あるいは、新大広報の編集会議に参加して、新大広報の制作に参加しませんか。

■問い合わせ先：学生課（262-7330）
または各学部の広報委員まで。

編集後記



今年の「卒業」特集号は、長谷川彰学長のメッセージで始まります。それぞれの学部を卒業する9人の卒業生、医療短大専攻科の最後の卒業生、大学院を修了する2人のいろいろな思い出の中に、たくさんの「出会い」と「感謝」が溢れています。海外旅行での世界の様々な事物や人々との出会いのような大きなインパクトのほか、ごく普通の日常生活の中での仲間との出会いの思い出もあります。学生生活を、「穏やかに流れかつ刺激の多かった旅」や「何とも不思議な期間」と表現した人もいますが、「学生って素晴らしい」という一語につきると言えます。これからも毎日が選択の積み重ねであり、出会った全ての人への感謝の気持ちを忘れずに頑張っていきたいと思えます。

定年退官という形で大学を卒業される14人の先生方からご寄稿いただきました。その思い出の中に、学園紛争や五十嵐キャンパスへの統合移転をはじめ新潟大学の歴史がたくさん刻まれております。研究室からの日本海や佐渡の眺めの素晴らしさ、豊かな自然と優しい人情に囲まれた新潟のよさが語られており、総合大学として新潟大学を目指して頑張ってきた先生方のご苦勞に心から感謝したいと思えます。

学長がメッセージの中で述べられているように、新潟大学は、法人化に向けての準備とともに、飛躍的な発展のための改革が始まっています。卒業生の皆様も、新潟大学の今後の発展を楽しみにしていただくとともに応援をお願いします。

編集委員長 山内春夫

広報委員会第1部会

| | | | |
|---------|-------------------|--------------|--|
| ● 部会長 | 仙石 正和 (学長特別補佐) | Tel 262-6751 | sengoku@ie . |
| ● 編集委員長 | 山内 春夫 (医学部) | Tel 227-2141 | daba@med . |
| ● 委員 | 井山 弘幸 (人文学部) | Tel 262-6573 | hrykiym@human.ge . |
| | 石坂 妙子 (教育人間科学部) | Tel 262-7116 | ishizaka@ed . |
| | 谷 喬夫 (法学部) | Tel 262-6493 | tani@jura . |
| | 濱田 弘潤 (経済学部) | Tel 262-6538 | khamada@econ . |
| | 石田 昭男 (理学部) | Tel 262-6145 | ishida@env.sc . |
| | 川瀬 知之 (歯学部) | Tel 227-2927 | kawase@dent . |
| | 鈴木 敏夫 (工学部) | Tel 262-6780 | suzuki@eng . |
| | 青柳 斉 (農学部) | Tel 262-6620 | qingliu@agr . |
| | 藤野 邦夫 (医療技術短期大学部) | Tel 227-2362 | fujino@clg . |

● 事務局 (学生部) Tel 262-7330 Fax 262-7515 gakusei@adm.
(E-mailのアドレスは、niigata-u.ac.jpの表記を省略しています。)

● 新潟大学ホームページ <http://www.niigata-u.ac.jp/>

● 新潟大学学生部ホームページ <http://ksws1.ge.niigata-u.ac.jp>

この広報は再生紙を使用しています。